

川根に感謝し、地域とともに  
歩んでいきたい

川根町家山の天王山公園  
で、13年間続いている野外音  
楽フェスティバル。自分たち  
が楽しむために始めたこと  
が、今では川根の夏を代表す  
るイベントの一つになりました。  
それを当初から支え続け  
ているのが、松島さんです。

【みんなのためのイベント】

8月4日に、野外音楽フェ  
スティバルが開催されまし  
た。今年は、県内外から  
1000人以上の老若男女が  
集まりました。「初めは、田  
舎でも若者が楽しめるイベン  
トをやりたいだけなん  
です。口コミでどんどんお



客さんが増え  
ていったのは、  
こちらの『お  
もてなし』を  
皆さんが感じ  
てくれたから  
だと思えます。  
アーティスト  
もお客さんも、  
すごく楽しみ

にしてくれているから、運営  
が大変でも、もうやめられな  
いですね」と松島さん。「今  
では、この盛り上がりや川根  
の振興につなげたいという気  
持ちが強いんです。地域も応

れ』って、僕らを呼んで言っ  
てくれたんですよ」とうれし  
そうに笑います。

【いつでも崖つぶちの気持ち】  
友だち同士で企画した音楽



KAWANE 夏祭り 仕掛人  
まつしまかずのり  
**松島和徳**さん (川根町家山)

援してくるようになりまし  
た」と、地元への思いを熱く  
語ります。「イベント翌日に、  
天王山の近くに住んでるおば  
あちゃん、『音楽に元気をも  
らった、これからはがんば

イベントを、県内外から大勢  
の人が川根に集う一大イベン  
トとして成功させた松島さん  
ですが、その原動力は今でも  
「崖つぶちの気持ち」だとい  
います。「過疎地域であるこ

とに変わりはないから、何も  
しなければ廃れていく現実が  
あります。僕は年を重ねるに  
つれて、川根に強く誇りを持  
つようになりました。この  
魅力を伝えて、さまざまな人  
と交流したいんです。そのた  
めにも、受け皿を広げていき  
たいと思っています」

【訪れる人はみんな家族】

川根への情熱は、一旦地元  
を離れたからこそ気付いた思  
いだといいます。乗馬を勉強  
するために、ドイツで一カ月  
間暮らした経験もその一つで  
す。「外に出たことで、より  
地元を愛するようになりまし  
た。これからも、自分の愛す  
るまちを盛り上げていく手伝  
いをしていきたいです」

また、松島さんは、川根を  
「ガーデン・シティ」にした  
いと考えています。「みんな  
の庭で一緒に遊ぶ感覚で、川  
根を愛してくれる人たちを増  
やしたいですね。川根に来る  
人がみんな家族みたくになれ  
たら、すごくすてきだと思っ  
ます」と、松島さんの夢はま  
ます膨らみます。



KAWANE 夏祭りの  
スタッフ(上)と大盛  
り上がりの会場(左)



Shimadian File #41